

Institutinal Research & Research Integrity Forum

Promotion of Research Integrity in Waseda University

~Acceleration and Braking in Research Promotion~

早稲田大学における 責任ある研究活動の推進

~研究推進におけるアクセルとブレーキのあり方~

早稲田大学責任研究活動之推動

~加速及減緩推動研究應有之作法~

Yoshiaki Fukazawa

Waseda University

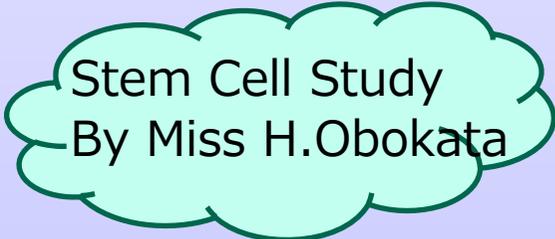
早稲田大学

理工学術院 教授

深澤 良彰

fukazawa@waseda.jp

Oct.02,2015

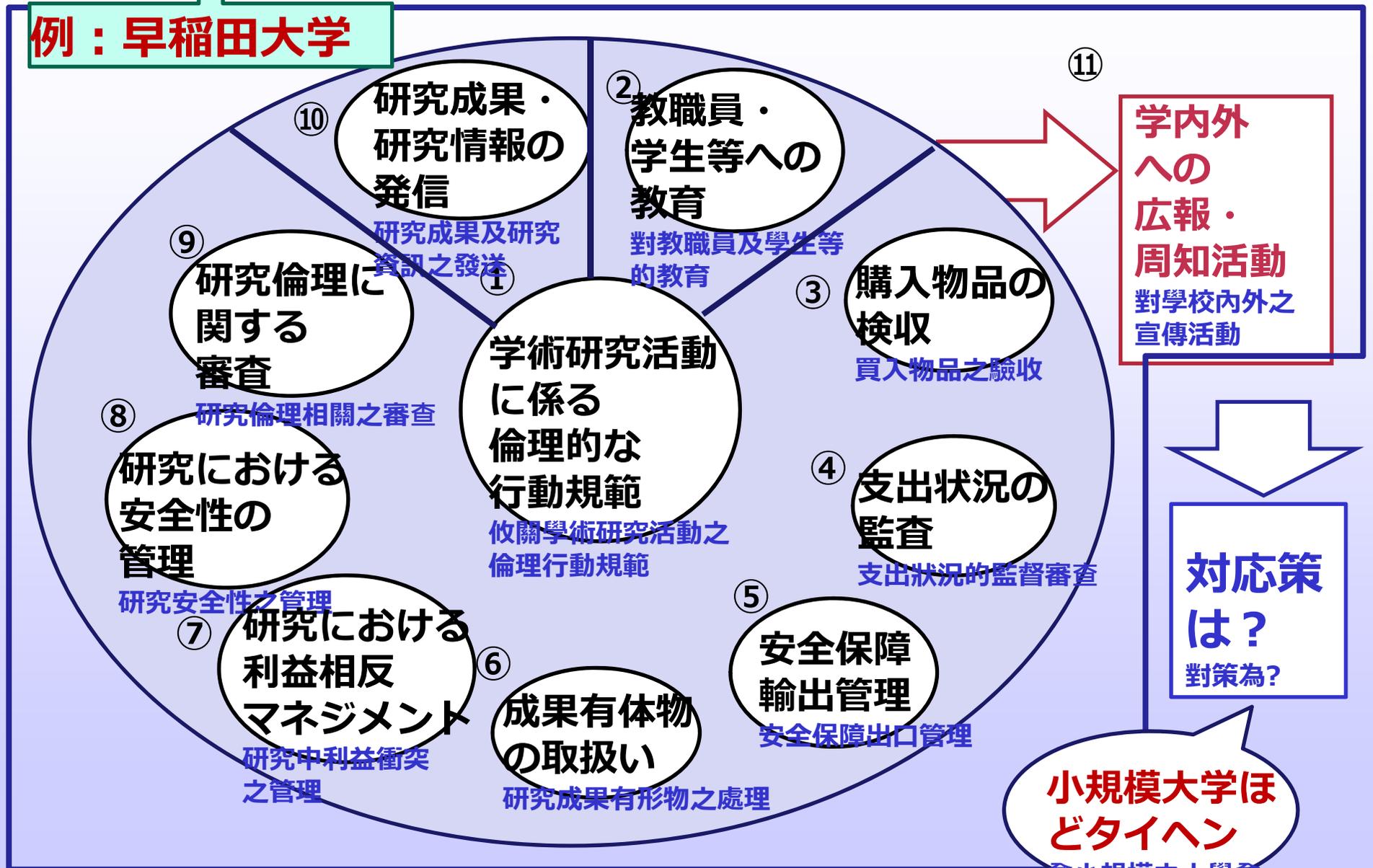


Stem Cell Study
By Miss H.Obokata

大学における「責任ある研究活動」の概観

大學「責任研究活動」之概廓

例：早稲田大学



小規模大学ほどタイヘン

愈小規模之大學愈不容易

「責任ある研究活動」への対応策

「責任研究活動」之因應對策

- (大学が得意なはずの) **教育** (大學理應拿手的)教育

– 対象 対象

- 教員・研究者

教師及研究人員

- 職員 職員

- 大学院生・学部学生 研究生及大學生

最も重要であるが、
最も難しい
最重要但最困難

『偉い』先生
ほどタイヘン

愈是「得高望重」的
老師愈是不容易

– 方法 方法

- 講演会（研修会）の実施、授業科目の提供、パンフレットの配布、Webページの提供など

舉辦演講(研討會)、提供授課科目、發簡介、提供網頁等

- **ガイドライン（規程）の作成と委員会による確認** 撰寫指導方針(規章)並由委員會確認

講演会の実施 舉辦演講

開催日時等
調整の難しさ
協調舉辦日期等的困難度

- 「研究活動と著作権

－研究者が知っておくべき著作権法の基礎知識－」

「研究活動與著作権-研究人員應該知道著作権法之基礎知識-」

講師：高林龍（本学法学学術院教授）（本校法學學院教授）

- 「科学者と研究の倫理

－研究不正に巻き込まれないために－」

「科學人員與研究倫理-避免捲入不法之研究-」

講師：白楽ロックビル（お茶の水女子大学大学院
人間文化創成科学研究科教授）

（御茶水女子大學研究所人類文化創立科學研究科教授）

- 「Fostering Honesty, Accuracy, Efficiency and Objectivity
in Research : The Role of Universities」

講師：Dr. Nicholas H. Steneck（ミシガン大学名誉教授

米国研究公正局顧問）（密西根大學名譽教授美國研究公正局顧問

（所属は講演会実施時のもの）（隸屬單位以演講當時為準）

多くの聴衆を集めることが難しい 聚
集眾多聽眾有困難

教職員向けオンデマンド研修

以教職員為對象之線上進修

- 概要：研究における不正行為とは何か、不正行為に対する本学の取組み等、研究を進める上での留意点等について 概要:何謂研究中的不法行為?本校對於不法行為所採取的措施等、進行研究時的注意事項等

- 提供方法：本学標準のLMS (Course N@vi) 上に置かれたオンデマンドコンテンツ 提供方法:於本校標準學習管理系統(Learning Management System) (Course N@vi) 上設置線上講義

- 内容 内容

- 「研究と倫理」 研究與倫理

(講師：理工学術院教授 研究推進総括理事 深澤良彰)

(講師:理工學院教授 研究推動總理事 深澤良彰)

- 「知的財産権をめぐって」 智慧財產權

(講師：法学学術院教授 高林 龍) (講師:法學院教授 高林龍)

- 「メンターとトレイニー、オーサーシップと出版の権利、共同研究」

指導教授與指導學生、原作與出版的權利、共同研究

(講師：人間科学学術院教授 土田友章) (講師:人類科學院教授 土田友章)

全教職員を集めて
の研修の難しさ

聚集所有教職員之進修的難度

なかなか見えない！
不易受到注目

現在進行中の試み 試辦中

教職員セルフマネジメントセミナー

- 内容 内容 教職員自我管理研討會
 - **学術研究倫理セミナー** 学術研究倫理研討會
 - 情報セキュリティセミナー 資訊安全研討會
 - ハラスメント防止セミナー 防犯侵擾研討會
- 対象：全教職員（約7,700名）（情報セキュリティセミナー、ハラスメント防止セミナーについては非常勤講師も含む） 対象:全教職員(約7700人)(資訊安全研討會及防犯侵擾研討會包含兼任講師)
- 3年ごとの全員一斉受講（2013年4月から） 所有人員每三年一同聽講(從2013年4月開始)
- 各セミナー：10～15分程度、テスト：合計で20問程度 各研討會:10~15分鐘、測驗:合計20項問題
- 実施形態：CourseN@vi によるオンデマンドセミナー 實施形態:透過CourseN@vi 實施線上研討會
- 出欠管理 出缺席管理
 - Waseda-net ポータルのログイン画面に、受講状況を表示 在Waseda-net 入口的登錄畫面顯示聽講狀況
 - 一定期間經過後に所属長からの注意勧告 經過一定期間後由所屬主管通知警告

全教員が、CMSの使用経験をもつという副次的効果

全教職員皆擁有使用CMS之經驗的次級效果



「研究倫理概論」

研究倫理概論

—研究者を目指す人々へ—

-給以研究人員為目標之人-

今年度から学位
を取る人は**全員**
必須に從今年度開始
要取得學位之人皆須要

【授業目標】 授課目標

文系理系を問わず、今後研究に従事する学生が研究倫理に関する理解を深め、研究者としての基本的な資質を養う。不論文學系或理學系,今後要從事研究之學生都要深入理解研究倫理,培養作為研究人員之基本資質。

【授業概要】 授課概要

論文作成や発表、共同研究等の研究活動を遂行するうえで、予め知っておくべき研究倫理について、研究計画のあり方から、知的財産権、被験者保護等の基本的事項をはじめ、利益相反、企業倫理、さらには研究ノートとデータ管理、安全保障等に関する事項を学内外の専門の講師により、具体的な事例を交えながら… 在完成撰寫或發表論文、共同研究等研究活動之後,關於事先就應該知道的研究倫理,從研究計畫該有的形式開始,以智慧財產權、保護研究對象等的基本項目為首,將利益衝突、企業倫理、研究筆記及資料的管理、安全保障等相關事項,透過校內外專門講師參雜具體實例...

学期：秋学期（後期） 學期:秋季學期(後期)

単位数：2 單位 學分數:2學分

対象：全大学院生および学部 3 年生以上 對象:所有研究生及大學部三

年級以上學生

まさにフルオンデマンドにすべき科目

完全線上授課理應做到的項目

●すべての学生にとって必要 對所有學生而言皆必需

➡ 地理的制約（所沢・西早稻田・北九州等）にかかわらず、受講可能 不受地理上(所澤、西早稻田、北九州等)的限制可聽講

➡ 時間的制約（曜日・時限）を気にせず、受講可能 不受時間上(星期、時限)的限制可聽講

➡ 学年的制約（全大学院学生、学部3年以上）なしに受講可能 不受年級(所有研究生、大學部三年級以上)的限制可聽講

➡ 言語的制約を排除するために、（一部）英語のコンテンツも作成し、利用可能 為了排除語言上的限制,(部分)也有以英文撰寫之講義可利用

●1人の教員では教えきれない 一位老師無法教遍所有的知識

➡ 講義日時にしばられないため、学内外を問わず、その分野の第一人者に講師依頼可能 因不受授課時間所限,故不論校内外,可委託該領域最有名望的講師



「研究倫理概論」 – 研究者を目指す人々へ –

「研究倫理概論」-給以研究人員為目標之人-

シラバス (1 / 2) 教學大綱(1/2)

【序論 なぜ研究の倫理か、現代世界における科学技術研究】

【序論 為什麼是研究的倫理?現代世界的科學技術研究】

- ① はじめに：なぜ研究倫理か（土田 友章） 前言:為什麼是研究倫理
- ② EU/欧米諸国における研究倫理（福田 耕治） 歐盟/歐美各國的研究倫理
- ③ 研究における不正行為：FFP（ねつ造・改ざん・盗用）の実際
研究中的不法行為:FFP(捏造、竄改、盜用)的實際狀況（白樂 ロックビル）
- ④ 研究における不正行為と法（横野 恵） 研究中的不法行為與法律

【研究の計画】 【研究計畫】

- ⑤ 研究計画のあり方（山内 繁） 研究計畫的形態
- ⑥ 被験者保護の基本①（ヒトゲノム、ES細胞を含む）（齋藤 有紀子）
保護研究對象的基本之一(包含人類遺傳因子、ES細胞)
- ⑦ 被験者保護の基本②（動物実験を含む）（田村 京子）
保護研究對象的基本之二(包含動物實驗)
- ⑧ 心理学と研究倫理（嶋田 洋徳） 心理學與研究倫理
- ⑨ 研究と利益相反（浦川 道太郎） 研究與利益衝突

「研究倫理概論」 – 研究者を目指す人々へ –

「研究倫理概論」-給以研究人員為目標之人-

シラバス (2 / 2) 教學大綱(2/2)

【研究の遂行】 【研究的完成】

- ⑩ 研究ノートとデータ管理の実践 (大須賀 壮) 研究筆記與資料管理的實踐
- ⑪ メンターとトレイニー, Authorshipと出版の倫理, 共同研究 (土田 友章)

指導教授與指導學生、原作與出版的倫理、共同研究

【研究の成果】 【研究的成果】

- ⑫ 知的財産権をめぐって (高林 龍) 智慧財產權
- ⑬ 企業と研究倫理 (大塚 英明) 企業與研究倫理
- ⑭ 安全保障と科学技術: 安全保障與科學技術

科学技術のミスユースのリスクと科学者の責任 (古川 勝久)

科學技術濫用的風險與科學家的責任

- ⑮ 研究倫理の実践: 早稲田大学の体制 (深澤 良彰、土田 友章)

研究倫理的實踐:早稻田大學的體制



学生対象倫理科目以學生為對象之倫理科目

「研究倫理概論」以外の設置科目

「研究倫理概論」以外之設立科目

- 「技術倫理」 (基幹理工学部・創造理工学部・先進理工学部設置) 「技術倫理」(設立於基礎理工學院、創造理工學院、先進理工學院)
- 「生命倫理科学」 (理工学部・先進理工学部・基幹理工研・創造理工研・先進理工研設置) 「生命倫理科学」(設立於理工學院、先進理工學院、基礎理工研究所、創造理工研究所、先進理工研究所)
- 「科学技術と倫理」 (理工学部・先進理工学部設置) 「科学技術與倫理」(設立於理工學院、先進理工學院)
- 「研究倫理：基礎と実践演習」 (先進理工研究科設置) 「研究倫理:基礎與實踐演習」(設立於先進理工研究科)
- 「生命理工学倫理論」 (先進理工研究科設置) 「生命理工學倫理論」(設立於先進理工研究科)
- 「科学倫理」 (グローバルエデュケーションセンター設置) 「科学倫理」(設立於全球教育中心)

等

研究倫理オフィスWebページ

研究倫理官方網頁

<http://www.waseda.jp/rps/ore/>

研究倫理に関するワンストップの入口 [研究倫理相關一元化窗口入口網頁](#)

Office of Research Ethics
早稲田大学研究倫理オフィス

■ ホーム

- 本学の研究倫理に係る取り組み
- 憲章・行動規範
- 学術研究倫理委員会
- 倫理審査に関する手続き
- 研究倫理科目・講習等
- 利益相反マネジメント

■ お問い合わせ先

■ 関連リンク集

LATEST NEWS & TOPICS
ニュース&トピックス

2012年12月14日
[人を対象とする研究等倫理審査 審査結果 更新](#)
人を対象とする研究等倫理審査の2012年度審査結果を更新しました。

2012年12月13日
[遺伝子組換え実験及び動物実験 2013年度申請関係書類掲載](#)
遺伝子組換え実験及び動物実験の2013年度申請関係書類を掲載しました。

2012年11月15日
[2013年度 厚生労働科学研究に関する利益相反マネジメントの実施について](#) **学内LAN限定**
2013年度 厚生労働科学研究に関する利益相反マネジメントの実施についての情報を公開しました。

2012年10月22日
[ヒトゲノム・遺伝子解析研究倫理委員会 議事内容 公開](#)
ヒトゲノム・遺伝子解析研究倫理委員会 議事内容 公開しました。

パンフレット 紹介手冊

- 研究助成ガイド 研究補助指南
 - 公的研究費使用ハンドブック 公費研究費使用手冊
 - 学術研究倫理ガイド 學術研究倫理指南
 - 知的財産活用マニュアル 智慧財產活用手冊
 - 利益相反マネジメントガイド 利益衝突管理指南
 - 安全保障輸出管理の手引き 安全保障出口管理之指導
- 等

- 英語版も提供 也提供英文版

- (ほとんどが) Webページから
ダウンロード可能
(幾乎)可從網頁上下載



ガイドライン（規程）と委員会

指導方針(規章)與委員會

研究の妥当性を担保する業務

擔保研究適當性之業務

研究の適正実施をモニタリングする業務

監督研究適當且正確實施之業務

早稲田大学学術研究倫理憲章

利益相反マネジメント 利益衝突管理

公的研究費に関する利益相反マネジメント規程
與公費研究費相關之利益衝突管理規章

利益相反マネジメント委員会 利益衝突管理委員會

研究における生命倫理 研究中的生命倫理

人を対象とする研究に関する倫理規程
以人為對象之研究相關倫理規章

ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する規程
人類遺傳因子、基因解析研究相關規章

ヒトES細胞研究専門倫理委員会に関する規程
人類ES細胞研究専門倫理委員會相關規章

生物実験安全管理規程 生物實驗安全管理規章

人を対象とする研究に関する倫理委員会
以人類為研究對象相關倫理委員會

ヒトゲノム・遺伝子解析研究倫理委員会
人類遺傳因子、基因解析研究倫理委員會

ヒトES細胞研究専門倫理委員会 人類ES細胞研究専門倫理委員會

遺伝子組換え実験審査委員会 基因重組實驗審査委員會

動物実験審査委員会 動物實驗審査委員會

研究費の適正使用 研究費的適當使用

研究活動に係る不正防止に関する規程
攸關防止不法研究活動之相關規章

執行管理の実施 執行管理的施行

学術研究活動に係る倫理的な行動規範

攸關學術研究活動之倫理行動規範

研究活動に係る不正防止に関する規程
攸關防止不法研究活動之相關規章

学術研究倫理委員会 學術研究倫理委員會

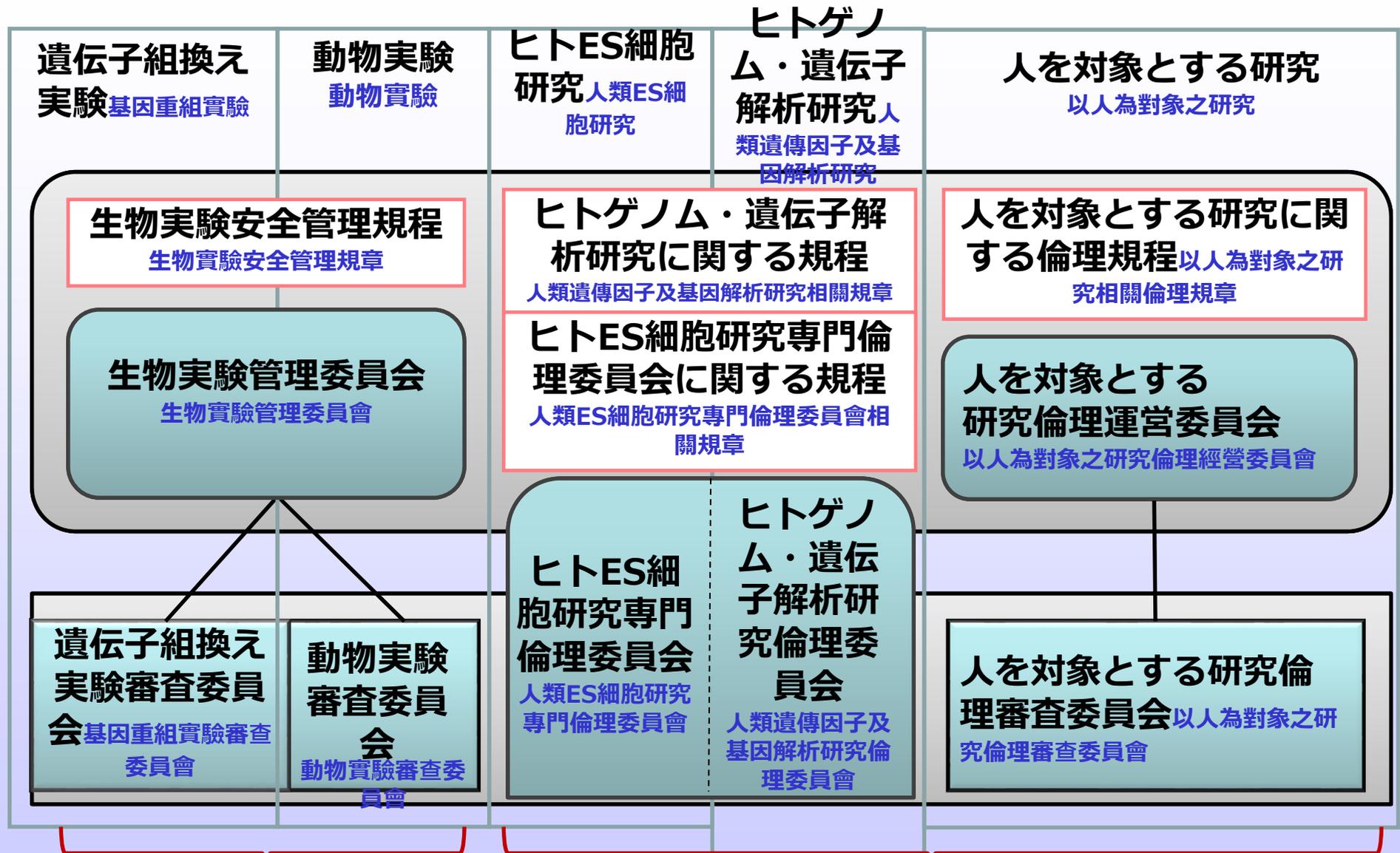
研究における安全性の管理 研究中安全性的管理

生物実験安全管理規程 生物實驗安全管理規章

生物実験管理委員会 生物實驗管理委員會

研究倫理に関する審査体制

研究倫理相關審查體制



人以外を対象とする研究 以人以外為對象之研究

人を対象とする研究 以人為對象之研究

各種手続き <http://www.waseda.jp/rps/fas/guide/index.html>

各種手續 Copyright ©Waseda University 2015. All rights reserved.

類似度判定ソフトウェアの導入

引進判別相似度之軟體

- 3つの選択肢 (2010年頃) 三種選擇(2010年左右)
 - 自前開発 自費開發
 - 国内の類似度判定ソフトウェアの導入 引進國內判別相似度之軟體
 - 海外の類似度判定ソフトウェアの導入 引進國外判別相似度之軟體



- いろいろな調査 各種調査
 - 同種のソフトウェアの比較 同類軟體的比較
 - アジア圏のいくつかの大学に調査 亞洲圈數間大學的調查
 - USのiParadigms社の訪問 訪問美國iParadigms公司



2012年4月より、米国iParadigms社の
類似度判定ソフトウェア導入の決定 決定自2012年4月開始使用美國
iParadigms公司的判別相似度軟體

Copyright ©Waseda University 2015. All rights reserved.

類似度判定機能の提供

判別相似度功能的提供

- 2012年4月より、米国iParadigms社の『Turnitin』を導入
自2012年4月開始引進美國iParadigms公司的『Turnitin』
 - LMS「Course N@vi」のレポート提出機能とAPI連携して利用
LMS「Course N@vi」的報告提交功能與API聯合使用
- レポート作成の際の**不正の抑止力**としての効果を期待
期望能在撰寫報告時有抑制不法的效果
 - 教員によるレポート課題作成時に設定が可能
教師在撰寫報告主題時可設定

類似度判定 判定を行わない 判定を行う

(相似度判別 不進行相似度判別 進行相似度判別)

対象：
doc、docx、
pdf、txt

- 学生からのレポート提出時にも注意を促す
學生在提交報告時也可敦促其注意
(類似度判定機能の設定有無に関わらず同じ画面が表示される)
(不論是否有設定相似度判別功能皆會顯示相同畫面)

上記の内容を了解した上で、提出するレポート・論文等について不適切な剽窃(盗用)をしていないことを
 確認しました。

剽窃・盗用に関する注意点を確認したうえで、「確認した」ことを表明しないと、レポート提出ができない

在確認剽竊及盜用相關注意事項之後,若未表明「已確認」則無法提交報告

レポートを提出する

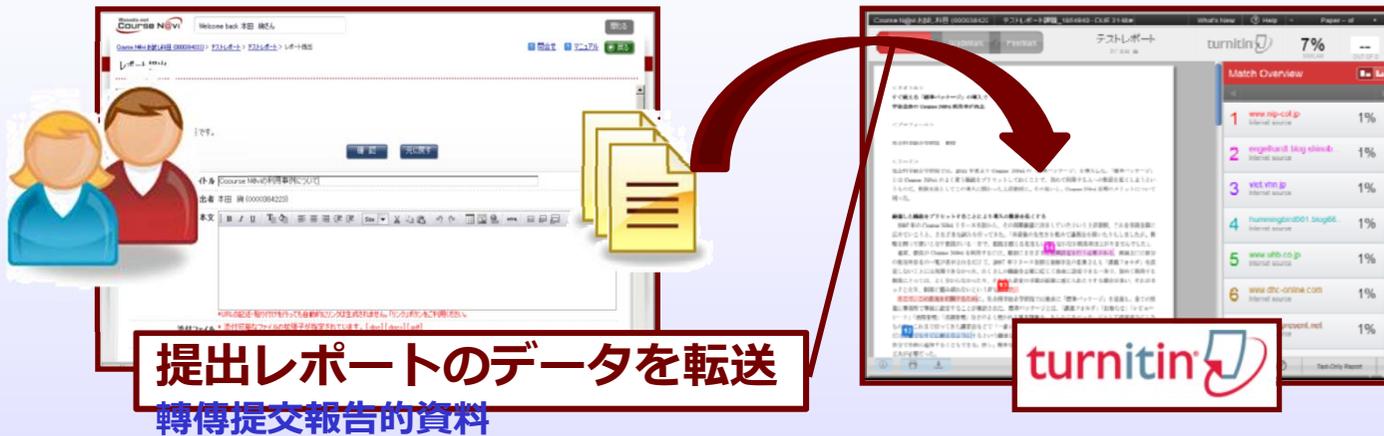
- 研究用には同社のiThenticateを提供
提供同公司的iThenticate以為研究之用
- 正しい引用かどうかは、教員の判断
由教師來判斷引用是否正確

類似度判定の方法 判別相似度的方法

現時点では、
学生には、公開していない
現階段未對學生公開

- 「Course N@vi」に提出されたレポート
提交於「Course N@vi」的報告

- 30分に1回 『Turnitin』に転送、判定 每30分轉傳1次給『Turnitin』判別



- 判定結果は、教員が「Course N@vi」から確認
判別結果由教師從「Course N@vi」確認

類似度判定結果が表示：
○%の部分をクリックすることで、判定内容の詳細を確認

顯示相似度判別結果:點選○%的部分來確認詳細的判別內容

iThenticateを導入して思うこと

引進iThenticate之反思

- 「iThenticate神話」の広がり 「iThenticate神話」的擴大

– 「iThenticateにかけておけば安心」 有iThenticate就安心了

– 学位論文については、受理時と最終提出時の2回
iThenticateにかける (2014年11月決定) 在學位論文方面,

要在受理與最後提交時共2次提交到
iThenticate(2014年11月決定)

The screenshot shows the iThenticate web interface. On the right, there is a 'Match Overview' table with the following data:

Match ID	Source	Words	Matched	Percentage
1	CrossCheck	478 words	Shimizu, Ryo, Kenji, Tei, Yoshiaki, Fukazawa, and Shinichirou. "Case studies on the development of wireless	1%
2	Internet	274 words	Created on 09-Jul-2013 researchmap.jp	1%
3	Internet	229 words	Created on 24-May-2012 www.grace-center.jp	<1%
4	Publications	185 words	中川, 隆二. "モバイル機器の普及に伴ってセンサネットワークシステムに求められる研究". 出版年不明, 2013.	<1%
5	Internet	144 words	Created on 27-Jul-2013 www.careerjet.jp	<1%
6	ProQuest	118 words	Liang, Chieh-Jan. "Interference characterization and mitigation in large-scale wireless sensor networks". Proquest	<1%
7	Publications	113 words	石川, 隆二. "組み込みシステムにおけるモバイル機器の普及に伴って求められる研究". NAGOYA REPOSITORY (Nagoya, 2013)	<1%
8	Internet	109 words	Created on 14-Oct-2013 andreaswordmann.de	<1%
9	Publications	92 words	石川, 隆二. "組み込みシステムにおけるモバイル機器の普及に伴って求められる研究". NAGOYA REPOSITORY (Nagoya, 2013)	<1%
10	Internet	81 words		<1%

On the left, a diagram titled '図 3.5: 平均温度監視における Group-level モデルの記述例' shows a hierarchical structure of nodes and relationships. The root node is 'Group' with properties: topology = TREE, locationCondition = WHOLE. It branches into 'Sink' and 'Group'. 'Sink' has properties: compression = NONE, encryption = NONE. 'Group' has properties: topology = TREE, locationCondition = ROOM1. 'Group' further branches into 'LeaderNode' and 'Group'. 'LeaderNode' has properties: compression = NONE, encryption = NONE, selectionPattern = ANY. 'Group' has properties: compression = NONE, encryption = NONE, topology = TREE, locationCondition = ROOM1. 'Group' further branches into 'SpatialAggregationOperator' and 'MemberNodes'. 'SpatialAggregationOperator' has properties: inputDataType = TEMPERATURE, function = AVERAGE. 'MemberNodes' has properties: selectionPattern = ALL, dataType = TEMPERATURE, samplingCondition = 3000, transmissionCondition = 3000.

↓ 神話の打破！

打破神話

- 適材適所的にうまく利用することが必要 必須適材適所有効利用
- 未来永劫埋まらないであろう「穴」は多数存在 將來永遠無法填補的「缺陷」仍大量存在

iThenticateの「穴」 iThenticate的「缺陷」

- 日本語以外で書かれたWebページ等を日本語翻訳ソフトにかけて、その結果を修正して提出等
用日文翻譯軟體將日文以外之網頁翻譯好了之後再予以修正提交等
- 利用者制限をしている内容への参照 參考使用者有受限之內容
 - 例：ガートナー社のDB 例:Gartner公司的資料庫
 - iParadigms社は、このようなDBをも探索の対象とするように努力（しているらしい） iParadigms公司努力(似乎有)使這類資料庫也能成為搜尋的對象
 - 例：PDFにパスワードを設定して 印刷以外を不可とするなどしてある文書 例:於PDF設定密碼只可列印的文件
 - USの企業が開発したソフトウェア 美國企業所開發的軟體
 - 日本語の文章へのチェックの精度 檢核日文文章之精密度
 - 特に引用を除外するオプションがあまり有効になっていない 特別是除了引用以外的選項不太有效果
 - 縦書き文書との類似度の算出 計算出與直寫文件之相似度

困っていること／困りそうなこと（1）

困擾之事項/似乎有困擾之事項(1)

- API (Application Programming Interface) の問題

應用程式介面的問題

- TurnitinのAPIについて 關於Turnitin的API

- 一部のAPIを廃止の方向？ 有一部分のAPI將廢除？
- APIの提供方針がここ数年で何度も変更 API的提供方針在數年間變動多次
- IMS Globalへの対応など必要なことだとは推量 因應IMS全球化等必要事項屬推測



独自LMSから利用している大学もあり丁寧な対応を

也有使用自行開發之LMS的大學,要謹慎因應

- iThenticateのAPIについて 關於iThenticate的API

- ユーザの登録・削除といった簡単なことでも、他システム（例えば人事DBシステム）との連携が結局うまくいかないため、手作業による運用 即使是使用者的登錄及刪除這類簡單的事項,因與其他系統(例如人事DB系統)聯結而導致不順,要透過手動操作



ライセンスどおりに運用するためにもAPIは重要な機能で

あり、きちんとした対応を 在照著使用許可操作上,API為重要的功能,要好好

因應

Copyright ©Waseda University 2015. All rights reserved.

困っていること／困りそうなこと (2)

困擾之事項/似乎有困擾之事項(2)

- 異なる科目で提出されたレポート間のチェック

不同科目所提交之報告間的檢核

- 現状で用意されているオプション 現況所預備的選項

- 後に提出を受けた科目の担当教員からメール送信をして、別の科目の担当教員が承認

由後來接受提交之科目的教師寄發電子郵件,再由其他科目的老師來批可

- 過去の科目の担当教員が退職しているケース等が問題

曾發生有過去的科任老師離職等問題

- 常に大学内で提出されたレポートであれば対象レポートを閲覧可能 若為常在校內被提交之報告,則可閱覽目標報告

- 先に提出されたレポート課題の担当教員にはチェック対象とな

ったことが通知されないことが問題有先被提交報告主題的負責老師不

會接到成為檢核對象的通知之問題



双方の担当教員が、提出されたレポートに類似したレポートが別の科目でも提出されたことが把握できる

ように要望 期望雙方負責老師可以掌握所提交之報告有相似的報告也提交到別的科目

今後考えなければならないこと 今後應思考的事項

- 学生にも利用可能とするか 是否讓學生也可使用
 - さまざまな議論の末、現時点では、教員だけに公開 歷經討論的結果,現階段只對老師公開
 - 公開推進派：自ら確認することが教育の一環 推動公開派:學生自己來確認也是教育的一環
 - 公開否定派：学生が類似度を算出し、セコく下げ、ある値以下なら大丈夫と判断して提出 反對公開派:學生算出相似度後,便可知其在某數值以下的話就沒問題而可提交
- より良い運用方法の検討 最佳使用方法之檢討
 - 一般の外部投稿に対する必須化 一般的外部投稿必要化
 - 修士論文以下への適用は？ 碩士論文以下是否適用?
- より良い類似度ソフトウェアの検討、場合によっては、乗換え 最佳相似度軟體之檢討、視情況做調換
 - 現状では、一度、導入してしまおうと、止められない 現階段是一旦引進便無法停止

最後に。。。 最後

自動車の
スピード違反

汽車超速

どんなに規程を作り
どんなに委員会を作り
どんなにパンフレットを作り
どんな類似度ソフトウェアを
導入し
どんなに教育をしても

即使有規章、有委員會、有手冊、引進相似
度軟體、有施予教育

悪いことをする研究者
は、絶滅はしない

(とっていないと、やっ
てられない) 惡質的研究人員不會消失

意識の变革が
できるか？

意識可改革？

その数を減らすこ
とは可能！

其數量可以減少

研究者にとっての安心 研究人員安心

社会にとっての安心 社會安心



Thank you...

日頃からより早稲田大学における責任ある研究活動の実現にご尽力いただいている早稲田大学研究推進部研究マネジメント課ならびに情報企画部のみなさまに深く感謝いたします。感謝一直盡力推動實現早稲田大學責任研究活動之早稲田大學研究推動部研究管理課,以及資訊企畫部的各位

本資料は、深澤自身の独断と偏見に基づいている部分もあり、決して、全てが早稲田大学の統一的理解ではありません。本資料有部分為深澤自身の判斷與偏見,絕非早稲田大學統一一致的看法

ご質問・ご意見等は
fukazawa@waseda.jp まで 有疑問與意見等請致fukazawa@waseda.jp